

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 特定非営利活動法人てのひら・人身売買に立ち向かう会

1. 事業の趣旨・目的

DV や人身売買被害に遭った外国籍女性たちで、子どもを育て、日本に定住することをめざす女性たちに対して、生活や就労の場面で活用できる日本語の読み書きと会話の教室を開講する。

2. 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
6月27日	都内某所	大津恵子氏 山崎パチャラ一氏 小山富美江氏 百瀬圭吾氏 杉本文恵氏	①各委員の自己紹介 ②事業実施計画 ③学習内容 ④借用会場の管理 ⑤広報 教室開講の告知 ⑥その他必要事項	各委員が自己紹介を行い、どのような計画で事業を実施していくのかをコーディネーターから説明した。また、「入門」、「初級」両教室の内容を説明。また、運営面では借用場所の管理や施錠方法について、参加者となる当事者の周知について検討した。その他必要事項を協議・検討し、反映できるところは実践することで対応することを確認し終了した。
11月26日	都内某所	大津恵子氏 山崎パチャラ一氏 鈴木いさ子氏 百瀬圭吾氏 杉本文恵氏 他、陪席者6名	①委員会の目的共有 ②事業報告(11月迄) ③当事者との関わりの中で見えてきたこと ④運営面での課題 ⑤その他、必要事項	9月からの開始以来、3カ月が経つ現在、運営上の課題や当事者に関わる講師、コーディネーター、運営委員等がよりよい学習と学習環境を当事者に提供でき、よりよい事業を運営していくことができるように連絡・協議した。連絡の方法や資料整理、人事面での課題等が挙げられ、その都度協議した。また、運営委員の専門性を共有してもらい、DV や人

				身売買等の暴力被害の当事者との関わりについても参加者で理解した。また、参加者がなかなか増えない現状を改善していくために、初めて教室に参加する当事者には同行支援者が必要であることが確認され、以後、対応していくことで決定された。その他、微細な連絡事項を確認し、終了。
3 月 10 日	都内某所	大津恵子氏 山崎パチャラ一氏 鈴木いさ子氏 百瀬圭吾氏	①委員会の目的共有 ②謝金等の経費精算 ③運営面での課題 ④当事者との関わりの中で見えてきたこと⑤今後の課題	前回運営委員会からの退所者クラスについて実施報告と運営上の課題を見極め、今後改善していけるように講師、コーディネーター、運営委員で協議した。まず、謝金等の経費精算を行い、その後講師が本事業に関わるなかで感じたことを共有した。また、当事者との関わりの中で見えてきたことや成果を共有し、共有したことを次年度に反映させていくために具体的課題を抽出し、確認した。

【写真】 会議風景の写真 ※会議の際は写真撮影を行わなかったため掲載できません。議事録は保管しています。

3. 日本語教室の開催について

- (1) 講座名 日本語「読み書き」教室 (入門)
日本語「読み書き」教室 (初級)
- (2) 開催場所 都内某所(本事業の受益者の安全に配慮し、開催場所は非公開とする)
- (3) 学習目標 入門クラス:読み書きを中心に、ひらがな、カタカナ、漢字も含めて学ぶ。
初級クラス:読み書きを中心に、より生活や就労に直結する内容で構成。
- (4) 使用した教材・リソース
「みんなの日本語」
「新にほんご生活の漢字 漢字み～つけた」、
「留学生のための漢字の教科書 初級 300」
その他、必要な資料やテキストを抜粋し活用。また、初級クラスでは履歴書や求人募集等の具体的なツールを講師が集めてきて教材として活用した。
- (5) 受講者の募集方法
添付資料のチラシ(タイ語、英語、日本語)を以下に各 20 部ほど配架した。

- ・東京都内の区市町村に設置されている福祉事務所
- ・難民支援、外国籍市民支援などを行っている都内(特に 23 区内)の NGO
- ・都内の男女共同参画センター等で電話相談等を行っている公共施設
- ・都内の国際交流センター(適宜)

(6) 受講者の総数 8人

(出身・国籍別内訳：フィリピン 4 人、タイ 2 人、中国帰国者 1 人、コンゴ 1 人)

(7) 開催時間数(回数) 60 時間 (全 24 回)

(8) 日本語教室の具体的内容

回(※)	開催日	時間数	受講 人数	国籍・母 語(人)	教授者・補 助者人数	内容
第 1 回 入門クラス	9 月 3 日	2.5 時間	4 人	タイ国・ タイ語(1 人) コンゴ・ フランス 語(1 人) フィリピ ン・タガ ログ語(2 人)	教授者 1 人 補助者 1 人	1. 五十音順(あ ～)質問と答え の型を使って指 導。学習同士で お互いにやる。 2. 行、段 テキ スト P4～6、9 3. 濁音、撥音 4. 大きい・小さ い
第 1 回 初級クラス	9 月 10 日	2.5 時間	3 人	フィリピ ン・タガ ログ語(2 人) 中国・中 国語(1 人)	教授者 1 人 補助者 1 人	1. 会話 ～っ て、～そうな 2. 献立表⇄ちら し ・料理方法 ・店の表示(買 い物等)
第 2 回 入門クラス	9 月 17 日	2.5 時間	2 人	タイ国・ タイ語(2 人)	教授者 1 人 補助者 1 人	1. 促音 説明、 発声、書き指導 2. 調音 説明、 発声、書き指導 3. こそあど指導 4. 質問の形 5. 簡単なあいさ つ

第2回 初級クラス	9月24日	2.5時間	2人	フィリピン・タガログ語(2人)	教授者1人 補助者1人	1. 病院での会話 2. 吐き気、めまい、体がだるい、生理痛の説明 3. 予約方法、予約の会話 4. 診療科目(内科等)説明
第3回 入門クラス	10月1日	2.5時間	3人	タイ国・タイ語(2人) フィリピン・タガログ語(1人)	教授者1人 補助者1人	第4課～第5課 1. 色(赤・青・白・黒)等を説明 2. 「同じ」「違う」の説明 3. □+い、□+い ろ+いを説明 4. 顔、体の部位の呼び方
第3回 初級クラス	10月8日	2.5時間	2人	フィリピン国・タガログ語(2人)	教授者1人 補助者1人	1. 求人広告の見方 2. 履歴書の見方と書き方 3. 電話応募の日本語(プリント使用)、電話をかけるロールプレイを行う
第4回 入門クラス	10月15日	2.5時間	2人	タイ国・タイ語(2人)	教授者1人 補助者1人	第6課～第7課 1. 事物認知(食べるもの、飲むもの)問答形式で行う 2. これ、それ、あれを用いて

						「質問とこたえの文型」
第4回 初級クラス (中止)	10月22日	2.5時間	0人	0人	教授者1人 補助者1人	【予定】 1. 履歴書の作成 2. 契約書の作成 ※中止理由: 講師、補助者は準備をして待っていたが参加者が来なかったため、実施できず(子どもの体調不良。子どもとの面接時間延長が理由)。
第5回 入門クラス	10月29日	2.5時間	2人	タイ国・タイ語(2人)	教授者1人 補助者1人	第8課～第9課 1. 「こ、そ、あ、ど」 2. 文の種類 3. 文と文との形 4. 「は」と「が」の違い
第6回 入門クラス	11月5日	2.5時間	2人	タイ国・タイ語(2人)	教授者1人 補助者1人	第9課～第10課 1. 9課の復習 2. 文と文「あり～あり」「あり～いて」「いて～いて」等 3. 家族、名称、外言葉、内言葉、年齢 4. 基本文 I～IV を会話

第 5 回 初級クラス	11 月 12 日	2.5 時間	2 人	フィリピン国・タガログ語 (2 人)	教授者 1 人 補助者 1 人	1. 電話応募の日本語 2. 応募電話の会話練習 3. アルバイトで使う日本語 4. 言葉づかい(職場、職場内、お客様へのそれぞれ) 5. 絵本読み「ぐりとぐら」
第 7 回 入門クラス (休講)	11 月 19 日	2.5 時間	0 人	0 人	教授者 1 人 補助者 1 人	【予定】 第 11 課の存在等を学習 ※休講理由: 体調不良と 2 名の参加者から前日に電話連絡有。留守番に丁寧なメッセージが入る。講師、補助者に連絡をし、休講とすることを前日に決定。
第 6 回 初級クラス	11 月 26 日	2.5 時間	1 人	フィリピン・タガログ語 (1 人)	教授者 1 人 補助者 1 人	1. 履歴書の確認 2. 面接のあいさつ(プリント使用) 3. 予防接種予診票の書き方説明 4. 「にほんごこれだけ」

第 8 回 入門クラス	12 月 3 日	2.5 時間	2 人	タイ国・ タイ語 (2 人)	教授者 1 人 補助者 1 人	第 11 課～第 12 課 1. ある、あります、 いる、います等の丁寧な 言葉づかい 2. ほん、ぽん、 ぽん & ひき、ぴ き、びき、アラビ ア数字等 3. 時間、曜日、 干支
第 7 回 初級クラス	12 月 17 日	2.5 時間	1 人	フィリピン・タガ ログ語 (1 人)	教授者 1 人 補助者 1 人	1. レストランで の会話 (プリント) 2. 読み、意味の 理解を確認 3. 家庭料理の 話 4. メニューを使 っての会話 (和・洋・中) の説明
第 9 回 入門クラス	1 月 7 日	2.5 時間	2 人	タイ国・ タイ語 (2 人)	教授者 1 人 補助者 1 人	第 14 課～第 16 課 1. 時間、分の読 み方 2. 人を表す丁寧な言い方 方、方たち、 方々、どなた 3. 社会人のこと ばづかい
第 8 回 初級クラス	1 月 14 日	2.5 時間	1 人	フィリピン・タガ ログ語 (1 人)	教授者 1 人 補助者 1 人	1. お正月につ いて 2. 日常生活、仕

				人)		事の話 3. 前回の宿題のチェック 4. 駅の利用(乗車等)
第 10 回 入門クラス	1 月 21 日	2.5 時間	1 人	タイ国・タイ語 (2 人)	教授者 1 人 補助者 1 人	第 16 課～第 17 課 1. 時間、時刻の復習 2. 週の復習 3. 月、季節、年(年号、西暦)
第 9 回 初級クラス	1 月 28 日	2.5 時間	1 人	フィリピン・タガログ語 (1 人)	教授者 1 人 補助者 1 人	1. 大地震が来る(プリント) 2. 手紙(年賀状、はがき、封筒、便箋等)。手紙の書き方、封筒の書き方(表・裏)を説明
第 11 回 入門クラス	2 月 4 日	2.5 時間	1 人	タイ国・タイ語 (1 人)	教授者 1 人 補助者 1 人	第 18 課 1. 第 17 課の復習 2. 動詞、「ひと」「もの」「とき」「ところ」について 3. 住所と現在地(東京の名所、雷門、フジテレビ等)を理解。 東京の白地図を使って「区」を理解。
第 12 回 入門クラス	2 月 18 日	2.5 時間	2 人	フィリピン・タガ	教授者 1 人 補助者 1 人	まとめ 作文

				ログ語 (2人)		・プリントを使った作文に挑戦
第 10 回 初級クラス (休講)	2 月 25 日	2.5 時間	0 人	0 人	教授者 1 人 補助者 1 人	【予定】 1. 手紙(学校からののお知らせ、官公庁からの通知) 2. 提出書類(住民票、行政手続のための書類等) ※休講理由: 参加者親子が共に発熱し、参加できず。また、子どもとの面接が直前に時間変更となり、急に来られなくなったと連絡が入る。休講とした。
第 11 回 初級クラス (中止)	3 月 3 日	2.5 時間	0 人	0 人	教授者 1 人 補助者 1 人	【予定】 道案内の会話 ※中止理由: 参加者が第 2 土曜、第 4 土曜が「初級クラスの日」とインプットされていたため、1 人も来なかった。14:00 まで待っていたが参加者が来ないため、実施できず。中止とした。

第 12 回 初級クラス	3 月 10 日	2.5 時間	1 人	フィリピン・タガログ語 (1 人)	教授者 1 人 補助者 1 人	第 10 回、第 11 回でやる予定であったことを実施。 1. 各種公共料金(電気、ガス、電話、水道)について 2. 宅急便について 3. 郵便料金について 4. 文書作成(まとめ)
-----------------	----------	--------	-----	-------------------	--------------------	---

※事前に参加者から連絡が入り、参加者がいないため実施できなかった場合を「休講」

事前に参加者から連絡がなく、参加者が来ないため実施できなかった場合を「休止」とした。

(9) 特徴的な授業風景(2～3回分)

※人物写真は当事者女性の安全とプライバシー保護のために掲載できないため、2012 年 1 月 7 日(土)の参加者が使った学習教材の写真 2 点を掲載します。

A. 非常勤で高校の英語講師補助の仕事を得られ、その仕事のなかで日本語の丁寧な表現やその場に適したニュアンスを用いてコミュニケーションを行える回数が増えた。

B. 清掃の仕事をする中で、仕事を行うにあたり日本人社員とのコミュニケーションをより円滑に適切に行えるようになり、自分からも主張し、相手が言っていることも理解できるようになり、職場での評価も高くなった。また、携帯電話は日本語を多用して使っている。

C. きちんとした日本語学習の機会に恵まれなかったが、この教室に通ったことで、これまで日常的に言葉で話していたことを読み書きもできるようになり、子どもの学校の郵便物や役所への手続き書類等でわからない部分を日本語講師に質問する等、生活のための日本語を積極的に学習していた。

D. 参加した回数は多くなかったが、精神的に不安定な状況のなかで日本語読み書き教室とのつながりを育んだことが、本人が安定感をより高める要因のひとつにもなった。

(2) 学習者の習得状況

本事業に継続的に参加者の半分以上は、日本在住は5年以上になるけれども、きちんとした日本語読み書きを習得する機会に恵まれなかった方がいた。そうした方は言葉はしゃべれるけれども、コミュニケーションを適切に行うことは当初は難しかったし、読み書きも「ひらがな」は全て書けるものの、簡単な言葉でも字と字が重ねるとそれが何を意味するのか、わからないという有様であった。

今回はそうした入門的なレベルの方には初歩的で基礎的な学習を提供し、もう少しレベルの高い内容をこなすことができ、生活や就労に結び付けていくことを目標にできる状況にある方には、それに見合った内容を提供でき、更なる能力強化につながられた。

学習者の習得度は高かった。今後も継続的に受講を行えば、1～2年のうちには、公立中学校レベルの日本語能力は十分備わる可能性がある参加者がほとんどであった。

(3) 日本語教室設置運営の効果、成果

本事業で教室を設置した地域は、都内でも大変外国籍市民が多く暮らし、さまざまな外国籍へのサポートが既に実施されている地域であった。が、DVや人身売買被害に遭った外国籍女性たちで、子どもを育て、日本に定住することをめざす女性たちに対して、安全に学習ができるような環境を提供しているプログラムはほとんどなかった。

特に、本事業では母子での参加を歓迎し、母が学習している間、子どもへの支援を行うことをたいせつに考え取り組んだ。こうした環境を整備することはコストも人手も労力もかかるが、こうした環境を整備した結果、幼い子どもがいるために参加ができないという女性

が減り、結果的に継続した受講を可能にした。

ユニークな受益者を対象とし、その受益者にあった学習環境を整備したことは、受益者となる人のニーズに沿うことができ、事業を実施した地域の既存のサポートをさらに強化できるものとなったといえる。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

本事業のなかで、地域の関係者との連携は欠かせないものとなった。とりわけ実施した地域を中心に都内の福祉事務所経由で、本事業の日本語読み書き教室を利用することになった外国籍女性がとても多かった。これは地域の関係者との連携の成果といえる。

また、会場となったスペースも地域の NPO の協力があつたからこそ利用できた。そして、講師となったフリーランスの日本語講師は都内を中心に神奈川や千葉から赴いてチームで丸となって本事業の実現に貢献してくれた。

こうした地域社会における草の根的なつながりが、地域社会に生きる本事業の受益者である外国籍でとりわけ脆弱な立場にある女性への支援に結び付いたと振り返っている。

(5) 改善点、今後の課題について

① 現状

【参加者の少なさ】

今回は延べ数で 8 名が参加したが、定着して参加した方はそこまでいなかった。幼い子どもの体調や自分自身の精神的な状態、物理的な状況等から日本語に集中して時間を割けられなかった当事者も少なくなかった。

なお、参加者確保すべく広報面では 3 言語のチラシをつくり各区の婦人相談所や福祉事務所、男女共同参画センター等に配布して力を入れた。が、初年度の取り組みという事もあり既存のつながりからの参加者はあつたが、新しくつながった関係機関からの参加は少なかった。

【学 習 環 境】

今回は都内で駅からのアクセスのよい場所を関係する NPO の協力を得て借用することができた。気持ちを落ち着けて学習できるようなスペースであったことは当事者の心を和ませたと感じる。が、子どもを預けるスペースと母である女性たちが学習するスペースとで、物理的な距離が比較的あつたので、もう少し母子が隣り合わせになれるような環境があれば、との意見も関係者からは挙がつた。

② 今後の課題

【より多くの参加者を確保する】

初年度ということもあり、関係機関からもまだ深い信頼関係を築けていなかった分、参加者となるような当事者を紹介してもらいにくかった。継続的にこうした事業を行っていく

中で、関係機関にも当法人を認知してもらい、つながりを深め、やがては参加者も増やせるようにしていきたい。

また、当事者同士の口コミを大きい。教室の運営に支障をきたさない程度に口コミをつないでもらえることもある。当事者同士が声を掛け合うことを促していくことにも努めたい。

【より適した学習環境を整備する】

DV や人身売買等の被害を経験した女性、その子どもたちにとって最も重要なことは、安全な環境で過ごせるということである。現状では前述したような環境で、母子で同じ建物の別室あるいは本当に近隣にお互いがいるということがあれば、その場でそれぞれにしていることが違えども、親子の精神的・物理的な距離が切れないため、安心して当事者たちも学習ができる。そうした環境を整備できるような場所を、今後同じ地域のなかで探したい。

また、当事者のなかには DV や人身売買被害に遭った経験を持つ女性たちばかりではなく、シングルマザーや日本人の配偶者を持つが日本語を学ぶ機会に恵まれなかった女性等もいた。そのため、当事者にもいろいろな背景を持つ仲間がここに集って勉強しており、この場所を安全に保ちたいために非公開としなければならないことを約束してもらい、場所を口外したり、許可なく人を連れて来たりしないように喚起し、管理体制も強化したい。

③ 今後の活動予定、展望

②を短期的な目標として取り組み、事業の各局面において改善をはかりたい。

中期的には、本事業で実施したようなスタイルの教室を当法人の独自財源で開設していかれることが望ましい。特に、外国籍のなかで生活保護を受給している方が少なくないので、たとえば生活保護費に就労のための特別加算等の扱いで 1 回につき 2,000 円ほどが行政から支給され、本事業に支払われれば、自主財源と併せて財源化することが可能となる。

最終的な長期的な目標としては、第三者である私たちは財源や事務的な運営に携わるのみとなり、基本的な運営や運営におけるさまざまな業務は当事者が当事者によって、当事者のために行えるような取り組みを目指したい。「日本語の読み書き」という外国籍のなかでもとりわけ脆弱な立場に置かれている女性たちにとって、必要不可欠な能力を自ら獲得していくような運動として展開していければ、と強く願うばかりである。

以上